ラーヤ・ドナエフスカヤ
名大講演会への招待

―日米学生人民の連帯のために―

■ プロフィール

■ "NEWS AND LETTERS"より
「アメリカの新しい時代の向かう ―連帯にむかう黒人運動と労働運動」

■ 拡がるアメリカの反戦デモ（ドキュメ

● ラーヤ・ドナエフスカヤを囲んで
至育学部教授 水田洋氏 他
豊田市民研究会

12月13日(月) Pm. 3.00より

教養部化学講義室

ラーヤ・ドナエフスカヤ歓迎実行委員会

9711

Welcome by Prof Mizata

ラロハイール

ラーヤ・ドナエフスカヤはアメリカの自動車工業の中心地デトロイトに住み、アメリカの労働運動、黒人運動、反戦運動と深くかかわりをもつてアフロコンタクト運動の母体である「アメリカ革命的人間主義者グループ」を組織し、機関誌"NEWS AND LETTERS"や"POLITICAL LETTERS"などを発行し、黒人運動やマルクス主義研究の著作を精力的に出版している。しかしながら、これらの問題提起は、彼女の長年にわたり深化発展させてきたマルクス主義の理論にもとづいて、それらの活動をリードし、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ各地にわたる広い読者層をもつている。

また彼女は、スターリンの大粛清、毛沢東の文革、ハンガリー革命、プラハの春などによる世界革命運動の未曽有の困難と挫折の中で、ローザ・ルクセンブルグ、レーニンとともにロシア革命を成功させたトロツキーの遺産をつぐものとして、ていねいに、彼女はその後一貫してマルクス主義の再生のために、翻訳、解説、運動についても独自の立場から分析と深めをなしている。その中でもはるかの遺産を思う。

〈僕たちの歌声の立場〉

僕たちは日韓連帯委員会の面々としたがつてこれまでアメリカでは青年・学生がベトナム戦争に反対して闘つてこれ、僕たちは自ずからの対この問題を通じて、それらの運動のその問題についておのおのに考えていきたいと思う。

また深刻なつつある問題に対して、それは特に韓国の問題として、まだ韓国の日本人のような活動には、深く接触的度はけがある。同紙はアメリカだけでなくヨーロッパ、アフリカ各地にわたる広い読者層をもつている。

また彼女は、スターリンの大粛清、毛沢東の文革、ハンガリー革命、プラハの春などによる世界革命運動の未曽有の困難と挫折の中で、ローザ・ルクセンブルグ、レーニンとともにロシア革命を成功させたトロツキーの遺産をつぐものとして、ていねいに、彼女はその後一貫してマルクス主義の再生のために、翻訳、解説、運動についても独自の立場から分析と深めをなしている。その中でもはるかの遺産を思う。

〈僕たちの歌声の立場〉

僕たちは日韓連帯委員会の面々としたがつてこれまでアメリカでは青年・学生がベトナム戦争に反対して闘つてこれ、僕たちは自ずからの対この問題を通じて、それらの運動のその問題についておのおのに考えていきたいと思う。

また深刻なつつある問題に対して、それは特に韓国の日本人のような

3176

動が生れているのかについて知りたいと思う。

ラーヤ・ドナエフスカヤさんはそれらのことを知るにはまたとない人だと思う。そして本当に日米学生人民の連帯をかちとるオ一歩にしたいと思う。

実行委員会はあらゆる政治的立場の違いを超えて、この集会に出席されることを学友の皆さん、勤労者の皆さんに心から訴えます。

〈拡がる歓迎交流〉

ラーヤ・ドナエフスカヤさんは十二月三日来日しました。彼女は日本の労働者学生人民の斗いに深い感心と期待をもち、来日を切望していました。

日本の新聞、各政治組織、サークルの中でも、様々な立場から歓迎交流が計画されてきました。名古屋大学でも小田洋先生を中心とする思想史研究会との交流会が十日にもたれ、12日には豊田市政研究会主催の集会が行われます。全国的にも4日東京　　七日広島、九日九州大学でそれぞれ集会がもたれます。

賛助者の氏名は十二月一日現在次の通りです。（敬称略、五十音順）

相原	秀	秋山	清	浅田	光輝
荒畑	寒村	石堂	清和	一条	実
内村	剛介	梅本	克己	大内	力
岡田	宗司	岡本	潔	奥地	圭輔
小山	弘健	佐藤	昇	佐伯	卓也
杉浦	明平	高島	健三	高橋	正雄
玉野井芳郎		塚本	哲治	都留	重人
鶴見	俊輔	中島	義道	長谷	川如是閑
三浦	正夫	宮田	宗介	村上	一郎
山田	宗睦	渡辺	一衛	渡部	義

〈カンパの訴え〉

安保の改定、護憲運動の高まりとともに、民主主義とは縁のない私たちが独力で負担しなければならないため、この小冊子の発行と販売を思いたちました。定価またはそれ以上のカンパをご心からお願いします。

ラーヤ・ドナエフスカヤを迎えて

名大経済学部教授　水田　洋　氏

ラーヤ・ドナエフスカヤという名前は、それほど有名ではないが、日本の経済学者たちは、戦後まもなく入手した『アメリカン・エコノミック・リヴィウ』で彼女が社会主義社会における価値法則の問題を提起したことをおぼえている。彼女は、ソヴェートは国家資本主義社会であって、社会主義社会ではないという主張を、この価値法則論争でもつらぬき、さらに『マルクス主義と自由』（邦訳『疎外と革命』）においては、マルクス主義の中心を疎外論におき、それを常識的に初期マルクス段階に限定することなく、『資本論』およびレーニン段階に拡大し、そこから、現代のソヴェートと中国を鋭く批判する。ぼくは彼女の議論に、多くの鋭さと同時に粗雑さを感じるし、政治的結論にも完全に同意するわけにはいかない。しかし、スターリン以来、一枚岩の画一性がマルクス主義の本質であるかのような誤解が、自他ともにゆるすような状態で、のさばっているとき、ドナエフスカヤの挑戦をうけることは、十分に意味があると思う。また、極端なまでの主体性の強調が、とくにアメリカのように疎外癒化の進行しているところで、どういう形で理論に物質をもつのかを、直接にきいてみたいと思う。十年前のイギリス留学のときに、マルクス主義的思想の国際的多様性を実感したぼくは、マルクス主義とアメリカ資本主義とのどれかに関心をもつ学生諸君が、ドナエフスカヤの話から、プラス、マイナスいずれにせよ、なにかをつかんでくれることを期待する。マイナスでもいいというのは、実験によって確認されに否定は、くわはざらいの「無」ではないからである。〈了〉

×　×　×

Introduction 1 Page to Japanese Public

Translation of Selma Letter

9715

《レーヤ・ドゥナエフスカヤ著》

アメリカの新しい時代の開始

―連帯に向う黒人運動と労働運動―

"NEWS & LETTES" 1965/5 [illegible]

[illegible]

[illegible]る。

[illegible]

あらかじめ準備していたという事実がある。

[illegible]

[illegible]を開始した。

[illegible]

《職場で黒人、白人労働者の共同進む》

過去十年間、保守的な労働組合幹部は、南部の街頭、そして工場における公民権運動を支持するという核心的問題ととりくむことを拒否してきたために、ますます増大し続ける未組織労働者を組織することに失敗したばかりでなく、全米にかけての労働組合の力の低下を招いたのである。

アメリカ労働運動にとって組合の力が最高だったのは一九五六年で、総労働人口の三分の一、千七百万人の労働者が組合に入っていた。これはAFL・CIO合同の年であった。この年はまた政府の偏見的な反動政策が生まれた年、白人市民協会やKKK団が南部の組合に害悪をもたらしはじめた年でもあった。労組の中央指導部が労働組合からこれらの人種主義者の害悪を根こそぎにすることを拒否したり、あるいはこれらの害悪に対して何ら有効な手段をとらなかったために、害悪は北部の組合支部にもおよんだ。

これ以後、スピードアップがはげしくなり、労働条件がひどくなる一方、失業率は高くなった。一九五六年以来、労働人口は五百万人あまりもふえたのに、組合加盟の労働者数は七五万人ほどもへったのである。現在まで労働者がこれ以上に大きな敗北をこうむらずにすんでいるのは、ひとえに公民権運動の力によっている。

一九六四年に公民権法が、公民権運動のこのような前進――それはとりわけ一九六三年のバーミングハム闘争以来の高揚によってかちとられたものの、職業における人種差別を正式に禁止した条項が発効するのは一年たって一九六五年七月二日になってからである。

《鉄鋼・電機労組委員長、職場で討論》

しかし、労働運動および公民権運動の下部大衆は、この問題を法律の言葉の言いまわしや、組合幹部の口約束にまかせてしまうことはないことをすでにはっきり表明している。今年の春、フリーダムランドで、建設労組が白人労働者しか雇おうとしないことに抗議して、ピケがはられた。

長い間、その地位を守りつづけてきた組合幹部をその席から追いだすに至った二つの重要な変化――国際電機労組委員長J・B・キャレイ、および鉄鋼労組委員長た

マクドナルドの罷免は、下部労働者の新しい意識と新しい方向を示している。

キャレイの場合。かれは昨年の十二月、二十歳の若で再選されたように思われた。ところが下部組合員の要求で、執行部が再調査したところ、実は二万三千票、差で敗けていたことがわかった。これは同組合十五年の歴史で、キャレイにたいして挑戦がなされたはじめての出来事である。二位はわずか数票の組合員制において下部大衆が反対が大きくなっていることを意味する。その結果最高得票一九五六年の三八七、〇〇〇から二六五、〇〇〇にへったのである。

言葉の上ではキャレイは、ADL＝CIO幹部の中で、公民権にかんしてもっとも戦闘的なことを言っていたが、行動の上では組合内の会議傍聴者一人、黒人も白人もふくめて一、三名っておくで大部分のオートメーションによるレイオフ、ピードアップに対し、職場レベルの抵抗の幹部に新しく抵抗が出ている工場の労働者を組織し、指導者を守ることに失敗している。

マクドナルドに対する反逆とエ・W・アベルの勝利は、より新しい内容をもっている。というのは鉄鋼労組は、全米最強の組合だからである。前の組合という場においてもまた、オートメーションの脅威、黒人労働者の雇用、賃金という二つの問題が大きな関心を集め、深い緊張をもたらしている緊急の課題になっているのである。

《新時代の徴候示す赤毛並リこみの波》

新しい時代が来ようとしているこのような事例がある。

① 今日はじめにCORE（人種平等会議）が組織した、アラバマ州セルマからの「自由行進」がニューヨーク州のシラキュースに到着した。巨大なナイアガラ・モホーク電力会社での黒人採用にかんする問題が労働者に提起されているのである。

② 三月六日はかり前までにオベーリン大学から来た六十名人あまりの学生がベーシルバニア州エリートでハンマーミル製鉄会社の長所が前にしかなはり、アラバマ州セルマでの問題のように、人種問題を理解しようとしている会社の計画に対

業して運営された。報道によると、会社は新工場では人種、差別を行わないと約束したとのことである。

③ ジョージア州アトランタで、先週、労組支部、人権運動諸組織、宗教団体の指導者たちが集って、「全アメリカ人が、市民ならびに労働者として完全な、平等な権利を獲得するための」諸組織の活動の連帯をはかることを目的にした「社会的、経済的、政治的集会のための同盟」を結成した。

労働運動と黒人運動のあらたな連帯を約束するものは、旧来の組合官僚のうつろな役割をあばき、かれらにたちむかって行く下部大衆の活動である。アメリカにおける巨大な敵国家は、いつもこの二つの偉大な動力を一つに結合し、思想と組織的活動を、人間のあらたな自由な関係を獲得するために形成していった時にかちとられているのである。

〈了〉

〈ラーヤ・ドナエフスカヤの著作〉

- 『資本主義の現代思想』 現代思潮社刊 ¥一五〇〇
  対馬忠行・三浦正雄訳
- 『マルクスがヘーゲルに負うもの』 近刊
- 『人間疎外と価値法則』 長崎社研訳刊 ¥一〇〇〇
- 『オートメと闘う米労働者』 近刊

（9ページ下段より）

デモ隊はすぐにホワイトハウスにおしかけたが「米国帝国主義退治。FBI（ジョンソン）よ、お前は何人殺害を殺したかと叫ぶものもいた。

また「米国ナチ党」を名のる反共右翼がデモへの妨害を企てたが警官としてこれをはねのけてデモを成功させた。

〔ドキュメント〕拡がるアメリカの反戦デモ

アメリカのベトナム反戦闘争は、今年五月のワシントン十万デモ以来、秋にかけて高揚をむかえている。一つには長い夏休みがあけて学生が学園にもどってきていること、もう一つはベトナム戦争泥沼化にともなう徴兵の強化が進捗の原因である。国防省は十二月に四万五千二百二十四人の新規徴兵を行う予定を発表したが、これは十一月の、三万六千四百五十人を上回るもので、朝鮮戦争以来最大の召集であり、全米青年を大きく刺激している。このため反戦運動は兵士への不戦の呼びかけと共に、兵役拒否という形で大きく発展しつつあるのである。米人民がベトナム人民へ銃をむけることを拒否する時、米支配階級の戦争政策は足もとから崩壊せざるをえないであろう。それだからこそ反革命も激化し、デモ隊への警察州兵、警察の派遣をはじめ、在郷軍人のデモへのなぐりこみなどの事態も起くでおこなっている。

日韓批准阻止の

去る十月十五日、日本では一万人の国会前座り込みが行なわれたが、その日アメリカでもベトナム反戦統一行動が開われ、十六、十七日と大規模な反戦闘的デモが全米に波まき、拡大した。米反戦闘争は再び高揚を迎えようとしている。

十五日、反戦デモの中心地、カリフォルニア州バークレーのカリフォルニア大学（昨年末全学ストを闘った）では州政府の禁止に抗して一万四千のデモ隊が、大学構内から出発し、十二キロほどはなれたオークランド陸軍徴兵への抗議の座りこみにむかった。当局ではデモを警戒して徴兵開始の空地にへいを作り、二千人の軍隊、四百人の警官をくりだしたが、この日の夕刻、かのセルマ事件（三月に黒人デモに対し官憲がおそいかかり死傷者を出した）を思わせるような情景となった。翌十六日にもデモは陸軍徴兵におしかけ、中へ入ろうとしたが、警戒線に衝突し、座りこみを行った。ニューヨークでは十五日には数百人がマンハッタンの下町にある新兵徴募事務所にデモを行い「ベトナム戦争をやめろ」と叫び、二十二才の青年が徴兵令状を焼き捨てた。FBI（米連邦捜査局）はこの青年を「徴兵令状損壊の連邦罪」（八月三十日に国会で制定された）のかどで逮捕した。十六日には、一万人が骸骨のマスクをつけ

に人々をまじえ目抜きの五番街を行進した。南部オースチンで同じような「死の行進」が行われている。十七日の日曜にはサンフランシスコで、二千人の市内デモが行われ、中心部で抗議集会を行った。このような同いは、この他、シカゴ、ボストン、デトロイト、ピッツバーグ、フィラデルフィアなどの東部、ロサンゼルス、ミネアポリス、シアトルなどの西海岸、コロラド、ニューヘブンなどの南部にいたるまで全米百以上の都市で行われ、数十万人の人々が、抗議集会、街頭デモ、軍事施設へのデモ、座り込み、徹夜討論会、泊りこみ、街頭宣伝などの行動に参加した。この「ウィーク・エンド行動」にひきつづいて、二十八日にはワシントンで十万人デモが行なわれ、劇作家のアーサー・ミラー、小説家ジョン・ハーシーなどが賛同している。

以上のように反戦デモの波の高まりにたいし、米国防総省は国内外の全軍事施設にむけデモ警戒体制に入るよう指令し、大統領は「デモが米国民全体の気分を反映していると、外国に誤解されることを憂慮する」と語り、司法省は兵役拒否運動を推進している団体としてSDS（民主的社会のための学生同盟）の「調査」を開始した。

西欧数ヶ国でも

アメリカの侵略戦争に呼応しロンドンで二千人がトラファルガー広場で抗議集会、米大使館デモを行い、ローマでは二千人の抗議集会、ベルギーのブリュッセルでは四千人、スウェーデンのストックホルム、カナダのトロント、エールのダブリンではそれぞれ数百人が米大使館に抗議デモを行った。

11・27ワシントンでベトナム反戦デモ

―全米から五万人結集―

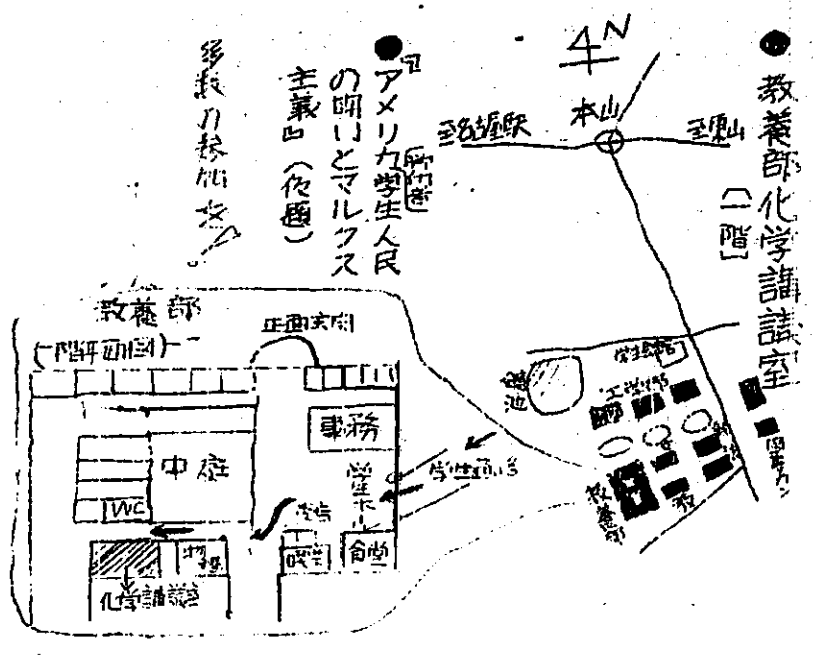
11月27日、ワシントンでベトナム侵略戦争に反対する「ベトナムに平和を求めるワシントン行進」が五万人を集めて行われた。

これはSDS（「民主的社会のための学生同盟」）、「ベトナム戦争を終結させる全国協議委員会」などが計画、組織したもので、戦闘的な部分と穏健な主張をもった家族グループなどアメリカのあらゆる反戦の態度を結集した大規模なものであったと伝えられている。（↓ワページ下段へつづく）

■名大講演会

●12月13日(月) Pm3時より(時間厳守)

●教養部化学講義室(二階)



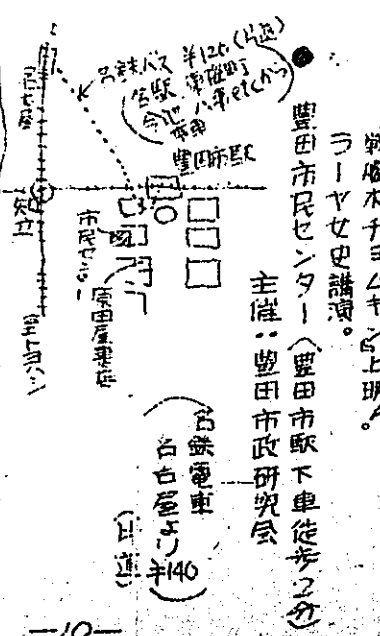
●『アメリカ学生人民の叫びとマルクス主義』(夜題)

多数の参加を!

■12日トヨタ集会にも多数参加を!

●12月12日(日) Pm1:00より
『戦艦ポチョムキン』上映!
ラーヤ女史講演。

●豊田市民センター〈豊田市駅下車徒歩2分〉
主催:豊田市政研究会



『トヨタ自動車を中心とする工場群をひかえ、「東洋のデトロイト」と宣伝されるこの豊田市に住む私たちは、ぜひこの来日を機にラーヤ女史を招き、アメリカにおける反戦運動と労働運動へ時にデトロイトの自動車産業労働者のオーの現状、またメキシコ時代のトロツキーの印象、加えて従来より女史の提起しているマルクス主義の新しい重要な問題等について、女史の話を聞き討論する集会をもたいと考え……』

市政研究会「お知らせ」より

9721

INVITATION TO THE LECTURE
BY *Raya Dunayevskaya*
IN NAGOYA UNIVERSITY

¥. 30

9722